

歯科医学総合講義 4 : 637-4-DP1・DP2・DP3・DP4・DP8

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	*清水 武彦 (小児歯科学)

学修目標 (GIO) と単位数	<p>・単位数：6</p> <p>・学修目標 (GIO) : 学修目標 (GIO) : 社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自律する全人的な歯科医師となるため、これまで講義や実習で学んだ内容を統合し、松戸歯学部 student dentist として必要な態度・知識・技能を修得する。歯学教育モデルコアカリキュラム (以下コアカリ) に記載されている項目を中心に学修内容を理解する。</p>
担当教員	<p>*清水 武彦、*有川 量崇、*内田 貴之、岡田 裕之、*小椋 正之、塩崎 一成、谷本 安浩、平塚 浩一、*青木 伸一郎、*石井 智浩、*伊東 浩太郎、*宇都宮 忠彦、加藤 治、*北川 剛至、*高井 英樹、*續橋 治、*内堀 聡史、*岡部 達、*岡本 康裕、*神谷 直孝、*葉原 紀子、田口 千恵子、河野 哲朗、*齋藤 真規、*末光 正昌、*鈴木 到、松野 昌展、青野 悠里、川島 央暉、永田 俊介、*小川 晃奈、*井上 正安、*岩田 好弘、*石井 かおり、*岡本 京、*下坂 典立、*辻 理子、*飯塚 普子、*吉崎 里香、*地主 知世、*榊 実加、*岩崎 正敏</p>
教科書	<p>各科目の指定教科書および配布プリントを使用する。各科目の指定教科書については講義担当者を確認すること。各科目に準じる。</p>
評価方法 (EV)	<p>合否判定基準は以下とする。歯科医学総合講義4の合格者は、要件をすべて満たした者とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共用試験のCBT (知識) およびOSCE (技能・態度) が共に合格基準を満たすこと。 ・平常試験1～5の平均点 (総得点数/総問題数) が65点以上であること。ただし、各平常試験の学年平均点が65点未満の場合、学年平均点が65点になるよう加点する。 <p>平常試験1～5の平均点が合格基準に達していない者に対して再試験を実施する。再試験の合格基準は65点以上とし、平常試験1～5の結果を加味できる。ただし、正当な理由 (理由を証明するに足りる詳細な書類等が必須) のない欠席が授業時間数の1/5以上の者は、再試験の受験資格を喪失する。</p> <p>平常試験1 (ユニット1) : MCQ 70問 (70分) 平常試験2 (ユニット2) : MCQ 60問 (60分) 平常試験3 (ユニット3) : MCQ 95問 (95分) 平常試験4 (ユニット4) : MCQ 100問 (100分) 平常試験5 (ユニット5) : MCQ 60問 (60分)</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	<p>1. 前学期：1～4年次に学修する自然科学分野、基礎歯科医学分野を中心に、基礎から臨床に向けて知識を整理しながら統合していくことを目的とする。平常試験1および2を実施する。</p> <p>2. 後学期：基礎歯科医学分野、衛生・社会歯科学分野と合わせて、臨床歯科医学分野の知識の習熟を目的とする。平常試験3～5を実施する。</p> <p>前期： ユニット1 コアカリC：生命の分子的基盤，人体の構造と機能，感染と免疫 ユニット2 コアカリC：人体の構造と機能，生体と薬物，病因と病態 コアカリD：歯科材料・器機の特性</p> <p>後期： ユニット3 コアカリC：感染と免疫 コアカリD：歯科材料・器機の特性 コアカリE：口腔領域の構造と機能，口腔・顎顔面領域の疾患，歯質と歯の欠損</p> <p>ユニット4 コアカリC：生体と薬物 コアカリD：歯科材料・器機の特性 コアカリE：画像検査，臨床検査，麻酔と全身管理，口腔・顎顔面領域の発生，歯と歯周組織の疾患，矯正歯科・小児歯科治療</p> <p>ユニット5 コアカリA：歯科医師として求められる基本的な資質・能力 コアカリB：社会と歯学 コアカリE：診察の基本，麻酔と全身管理，口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>3. 歯科医学総合講義4の学修範囲は1～4年次各科目で学修する内容であり、各科目の配布資料も併せて事後学習を行う。自主学修時間やオフィスタイムを有効に活用し、積極的に各講義担当者に質問し、さらなる知識および技能の向上を図る。</p> <p><注意></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CBT対策として外部講師による総合演習を行う。 2. CBTおよびOSCEの本試験の結果は、2月中に発表予定である。(詳細は別途案内) 共用試験再試験担当者・歯科医学総合講義4再試験当者は、再試験の実施のため、旅行などの予定は入れないこと。 <p>※歯科医師の実務経験を活かし、歯科医学の総合的知識を説明する。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/09 (木) 3時限 13:10～14:40	生体を構成する基本物質，細胞の構造と機能	<p>【授業の一般目標】</p> <p>細胞の基本的構造を学び、それらと細胞機能，細胞増殖および分化機構との関係を理解する。</p> <p>生命を構成する基本物質の分子的構造と機能ならびにそれらの生体内代謝とその異常を理解する。</p>	栗原 紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/09 (木) 3時限 13:10～14:40	生体を構成する基本物質、細胞の構造と機能	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する基本物質を説明できる。 2. 細胞内での物質の代謝を説明できる。 3. 細胞の基本構造と機能について説明できる。 4. 細胞内小器官の役割を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：コアカリキュラムC-2-1), C-2-3)の範囲を復習 ・事前学修時間：60分 ・事後学修項目：講義で配布したプリントの内容を復習 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、配布プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 c 細胞・細胞小器官の構造・機能 <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。 C-2-3) 細胞の構造と機能 ①真核細胞の全体像と細胞膜、核、細胞小器官及び細胞骨格の構造と機能を説明できる。 ②細胞の分泌と吸収を説明できる。</p>	栗原 紀子
2026/04/16 (木) 3時限 13:10～14:40	遺伝子：染色体の複製、転写と翻訳、翻訳後修飾	<p>【授業の一般目標】</p> <p>遺伝子について理解するために、染色体の構造と複製、転写と翻訳、翻訳後修飾について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の構造と機能を説明できる。 2. DNAの複製について説明できる。 3. 転写と翻訳について説明できる。 4. 翻訳後修飾について説明できる。 5. 遺伝情報の発現に至る各過程の機序を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：配布プリントで該当する内容を予習する。 ・事前学修時間：60分 ・事後学修項目：講義内容を復習する。 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、配布プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 b ゲノム、遺伝子、染色体 <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-2) 遺伝子と遺伝 ①核酸、遺伝子及び染色体の構造と機能を説明できる。 ②デオキシリボ核酸(DNA)複製と修復の機序を説明できる。 ③転写と翻訳の過程と調節機序を説明できる。</p>	栗原 紀子
2026/04/23 (木) 3時限 13:10～14:40	身体を構成する組織、器官(組織学) 個体発生、器官発生	<p>【授業の一般目標】</p> <p>人体の初期発生、胚葉形成、器官形成について説明できる 鰓弓を理解できる。 人体を構成する主要な組織を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個体発生と器官発生を概説できる。 2. 鰓弓の成立を説明できる 3. 鰓弓由来の器官組織を列挙できる 4. 内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修項目：人体の初期発生、胚葉形成、器官形成について ・事前学修時間：60分 ・事後学修項目：配布資料などを参考に復習する。 ・事後学修時間：60分 	岡田 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/23 (木) 3時限 13:10～14:40	身体を構成する組織、器官(組織学) 個体発生、器官発生	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ア 人体の発生 a 生殖形成、排卵、受精、着床、二層性胚盤、三層性胚盤、胚子期、胎児期</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長 ①人体の正常な個体発生と器官発生を説明できる。</p>	岡田 裕之
2026/05/07 (木) 3時限 13:10～14:40	微生物の基本的事項	<p>【授業の一般目標】 微生物の形態学的特徴、病原性および感染機構について説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 3. 細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構を説明できる。 4. 細菌、真菌、ウイルスがヒトに対して示す病原性を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：微生物の形態学的特徴、病原性および感染機構について復習する。 準備学修時間：60分 事後学修項目：講義内容の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、配布プリント</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 a 病原微生物 b 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/05/14 (木) 3時限 13:10～14:40	頭蓋骨と筋(1F第1実習室集合：白衣持参)	<p>【授業の一般目標】 下顎骨を動かす筋の構造と機能を理解するために頭蓋骨の構成を説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 下顎骨の構造を説明できる。 2. 蝶形骨の構造を説明できる。 3. 側頭骨の構造を説明できる。 4. 上顎骨の構造を説明できる。 5. 咀嚼筋の構造を説明できる。 6. 舌骨上筋の構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：咀嚼筋と舌骨上筋の起始-停止を復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：配布プリントを熟読する。 ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 頭蓋骨模型を用いて学習内容を各自が確認する。(第1実習室で骨実習を予定)</p> <p>【学修方略(LS)】</p>	松野 昌展

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/14 (木) 3時限 13:10～14:40	頭蓋骨と筋 (1F第1実習室集合：白衣持参)	<p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 イ 頭頸部の骨格系 a 頭蓋の全容</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。</p>	松野 昌展
2026/05/21 (木) 3時限 13:10～14:40	口腔微生物学	<p>【授業の一般目標】 口腔内に常在する細菌の種類と特徴について学修する。 口腔細菌の病原性および宿主との相互作用について学修する。 齧蝕や歯周病をはじめとする口腔感染症の発症機構について学修する。 口腔細菌の制御および感染予防の基本的考え方について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 細菌、ウイルス、真菌の基本的性状を説明できる。 3. 細菌、ウイルス、真菌を起因とする感染症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：病原微生物と関連する感染症について予習 準備学修時間：30分 事後学修項目：配布プリントの復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/05/28 (木) 3時限 13:10～14:40	頭蓋骨と神経 (1F第1実習室集合：白衣持参)	<p>【授業の一般目標】 頭蓋骨と脳神経の通路を理解するために神経系の概要と構造的機能的意味を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 中枢神経の区分と機能を説明できる。 2. 末梢神経の構造的、機能的区分を説明できる。 3. 脳神経の分布と機能を説明できる。 4. 神経節、脳神経核の構造と機能を説明できる。 5. 頭蓋底の構造を説明できる。 6. 翼口蓋窩の構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：中枢神経を構成する各部の名称を復習する。脳神経の分布領域を復習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：配布プリントを熟読する。 ・事後学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング 無 プリントの配布、マルチメディアを使用。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能</p>	松野 昌展

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/28 (木) 3時限 13:10~14:40	頭蓋骨と神経 (1F 第1実習室集合: 白衣持参)	ク 神経系 d 自律機能 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能 (運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能)を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑤脳神経の走行、分布及び線維構成を説明できる。	松野 昌展
2026/06/04 (木) 3時限 13:10~14:40	平常試験 1 および 解説講義	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 講義の内容に関する知識の修得状況を確認し、修正できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 講義ノート, 講義配布資料, 教科書, 問題集など 準備学修時間: 知識の修得に十分な学修時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/06/11 (木) 3時限 13:10~14:40	神経と内分泌による 恒常性の調節	【授業の一般目標】 人体の恒常性が神経系と内分泌系によってどのように調節されているかを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 神経の種類を説明できる。 2. 中枢神経と末梢神経の違いを説明できる。 3. 求心性神経と遠心性神経の違いと役割を説明できる。 4. 自律神経の二重支配を説明できる。 5. ホルモンの分類と名称を説明できる。 6. ホルモンによる糖代謝調節を説明できる。 7. ホルモンによるカルシウム代謝を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 神経細胞の構造と名称, 内分泌器官の種類を復習しておく。 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: Webclass上の課題別講義 (生理学) のうち, 神経と内分泌の小テストを受けること。 事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 プリントを配布する。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系] 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 d 自律機能 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる。 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/11 (木) 3時限 13:10~14:40	神経と内分泌による恒常性の調節	①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。	加藤 治
2026/06/18 (木) 3時限 13:10~14:40	循環と呼吸の調節	<p>【授業の一般目標】 循環と呼吸の調節メカニズムを学び、循環と呼吸の関連を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 血圧と心拍数の調節メカニズムを説明できる。 2. 圧受容器反射を説明できる。 3. 化学受容器反射を説明できる。 4. 外呼吸と内呼吸を説明できる。 5. 血液における酸素運搬を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血液におけるpH緩衝能について復習する。血管および心臓の構造を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：Webclass上の課題別講義（生理学）のうち、循環と呼吸の小テストを受けること。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 a 気道、肺・呼吸筋 b ガス交換 c 呼吸調節</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環 (肺循環、体循環及び胎児循環) の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。</p>	加藤 治
2026/06/25 (木) 3時限 13:10~14:40	口腔の感覚	<p>【授業の一般目標】 口腔の痛覚と味覚の伝導路を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔の痛覚の伝導路を説明できる。 2. 味覚の伝導路を説明できる。 3. 味物質を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔の感覚に関わる脳神経を理解する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：Webclass上の課題別講義（生理学）のうち、口腔の感覚の小テストを受けること。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 b 味覚、嗅覚</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論</p>	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/25 (木) 3時限 13:10～14:40	口腔の感覚	<p>総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 c 象牙質、歯髄、歯根膜 d 咀嚼筋筋紡錘、顎関節受容器</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 ④疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。</p>	加藤 治
2026/07/02 (木) 3時限 13:10～14:40	薬物の作用機序	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬理の作用機序、薬物の併用に関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 受容体を介する薬物を列挙し説明できる。 2. 受容体を介さない薬物を列挙し説明できる。 3. 薬物の併用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：「薬物の作用機序」について教科書で確認する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 c 薬物投与 (連用と併用を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	青野 悠里
2026/07/09 (木) 3時限 13:10～14:40	歯科材料・器械の 所要性質	<p>【授業の一般目標】 歯科材料および歯科用器械・器具の適切な取り扱い法を理解するために、それらの基本的性質について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科材料の物理的、機械的、化学的および生物学的性質について説明できる。 2. 応力-ひずみ曲線について説明できる。 3. 歯科用器械・器具の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科材料・器械の分類および用途について教科書で確認し、該当する講義内容について予習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：配布した講義プリント内の試験問題 (主に国試過去問) を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/09 (木) 3時限 13:10~14:40	歯科材料・器械の 所要性質	<p>総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器</p> <p>1 生体材料の科学</p> <p>ア 材料の種類</p> <p>a 有機材料</p> <p>b 無機材料</p> <p>c 金属材料</p> <p>d 複合材料</p> <p>a 物理的性質</p> <p>b 機械的性質</p> <p>c 化学的性質</p> <p>d 生物学的性質と生体安全性</p> <p>2 診療用器械・器具</p> <p>ア 診療用器械</p> <p>d レーザー機器</p> <p>7 成形技術・機器</p> <p>エ CAD/CAM</p> <p>a 切削加工</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具)</p> <p>D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途</p> <p>①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。</p> <p>②材料の物理的 (力学的性質と熱的性質を含む)、化学的 (溶解性を含む)、生物学的 (生体活性、副作用を含む) 性質とその評価法を説明できる。</p> <p>③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。</p>	谷本 安浩
2026/07/16 (木) 3時限 13:10~14:40	病因と病態	<p>【授業の一般目標】</p> <p>病因と病態を理解するために、退行性病変 (細胞・組織の傷害)、循環障害、進行性病変 (増殖と修復)、炎症、腫瘍及び先天異常の病因、分類、病理学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 下記の学修目標及び授業内容は臨床経験に基づいて設定するものである。</p> <p>2. 退行性病変 (細胞・組織の傷害) の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>3. 循環障害の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>4. 進行性病変 (増殖と修復) の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>5. 炎症の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>6. 腫瘍の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>7. 先天異常の病因、分類、病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：</p> <p>1) 病因論における内因と外因について</p> <p>2) 6大病変の分類と特徴について</p> <p>・事前学修時間： 60 分</p> <p>事後学修項目</p> <p>1) 6大病変の病理学的特徴の整理</p> <p>2) WebClass上に掲載した病理組織像の所見整理</p> <p>・事後学修時間： 60 分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無し</p> <p>マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>6 主要な疾患と障害の病因・病態</p> <p>ア 疾病の概念</p> <p>c 細胞・組織の損傷と修復</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>6 主要な疾患と障害の病因・病態</p> <p>ア 疾病の概念</p> <p>b 先天異常・発育異常</p> <p>d 炎症</p> <p>g 腫瘍・腫瘍類似疾患</p> <p>h 循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学</p> <p>C-5 病因と病態</p> <p>C-5-1) 病因論と先天異常</p> <p>①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。</p> <p>②環境と疾患の関係を説明できる。</p> <p>C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮</p> <p>①細胞傷害と組織傷害を説明できる。</p> <p>C-5-3) 修復と再生</p> <p>④創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。</p> <p>C-5-4) 循環障害</p> <p>①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。</p> <p>④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。</p> <p>C-5-5) 炎症</p> <p>①炎症の定義と機序を説明できる。</p> <p>②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる</p> <p>C-5-6) 腫瘍</p> <p>②腫瘍の病因を説明できる。</p> <p>⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/23 (木) 3時限 13:10~14:40	総合演習	<p>【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到</p>
2026/08/20 (木) 3時限 13:10~14:40	平常試験 2 および 解説講義	<p>【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 講義の内容に関する知識の修得状況を確認し、修正できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	<p>*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到</p>
2026/09/08 (火) 1時限 09:00~10:30	ガイダンス・共用 試験の説明 1	<p>【授業の一般目標】 共用試験（CBT, OSCE）について実施概要と評価方法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 特になし</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 ③医療の改善の必要性和科学的研究の重要性を説明できる。 ④科学的研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に積極的に参加する。</p>	<p>*清水 武彦 *谷本 安浩 *伊東 浩太郎</p>
2026/09/08 (火) 2時限 10:40~12:10	嚥下のメカニズム	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下を理解するために、嚥下の機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 摂食嚥下の5期を説明できる。 2. 嚥下反射を説明できる。 3. 喉頭蓋を動かす筋を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【事前学修項目】 摂食嚥下の5期を理解しておく。 事前学修時間：30分 【事後学修項目】 授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 エ 嚥下 a 摂食嚥下の5期</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能</p>	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/08 (火) 2時限 10:40～12:10	嚥下のメカニズム	C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。	加藤 治
2026/09/10 (木) 3時限 13:10～14:40	頭頸部の内臓	<p>【授業の一般目標】 頭頸部の内臓の構造を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔の区分を説明できる。 2. 舌の構造を説明できる。 3. 口蓋の構造を説明できる。 4. 唾液腺の構造を説明できる。 5. 咽頭の構造を説明できる。 6. 鼻腔の構造を説明できる。 7. 喉頭の構造を説明できる。 8. 頭頸部の循環器系の分布を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：口腔、舌、唾液腺、咽頭の構造を配付資料・解剖の本で確認する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：口腔、舌、唾液腺、咽頭の構造を再確認する。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し プリントを配付する</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 オ 頭頸部の内臓系 a 口腔</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ④頭頸部の脈管系を説明できる。 ⑫扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。 ③舌の構造と機能を説明できる。 ⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。 ⑦上顎洞の構造、機能及び口腔との関係を説明できる。 ⑧構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。</p>	松野 昌展
2026/09/10 (木) 4時限 14:50～16:20	クラウンブリッジによる歯科補綴治療 (総論)	<p>【授業の一般目標】 歯質の欠損に対する歯冠修復における臨床的意義と方法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. クラウンブリッジの意義について説明できる。 3. クラウンブリッジの技工操作を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目：教科書の関連項目を学修する。 ・事前学習時間：30分 ・事後学習項目：授業で配布した資料を基に教科書を用いて知識の構築を図る。 ・事後学習時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：なし 学修媒体：講義プリント、PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 d 歯の欠如・欠損の治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 3 クラウンブリッジによる治療 ア クラウンブリッジの設計 a 前処置 b 支台歯形成 c 支台築造 d 印象採得 e プロビジョナルレストレーション f 顎間関係の記録</p>	*岩田 好弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/10 (木) 4時限 14:50～16:20	クラウンブリッジによる歯科補綴治療 (総論)	g 患者情報の記録と伝達 h 口腔内試適 i 仮着 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ②クラウンブリッジの種類、特徴及び製作法 (CAD/CAM を含む) を説明できる。 ③クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。 ④研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。	*岩田 好弘
2026/09/15 (火) 1時限 09:00～10:30	歯質・歯の欠損と歯科材料：有床義歯①	【授業の一般目標】 可撤性義歯を適切に製作し患者に適切に装着するために必要な部分欠損歯列の病態の検査、可撤性義歯製作法及び装着後の管理を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 3. 可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 4. 可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 5. 可撤性義歯の設計原則を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：3年次の有床義歯補綴学の学習内容の復習 事前学修時間：約2時間 事後学修項目：3年次の有床義歯補綴学の学習内容のまとめ 事後学修時間：約2時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングあり：ピアインストラクション PC、プリント 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 エ 治療計画の立案 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 a 設計の原則 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) ②可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 ③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ④可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 ⑤可撤性義歯の設計原則を説明できる。	*石井 智浩
2026/09/15 (火) 2時限 10:40～12:10	炎症の生化学	【授業の一般目標】 炎症について理解するために、炎症性ケミカルメディエーターの種類と作用、発症機序を学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 炎症性ケミカルメディエーターの種類を列挙できる。 2. アミン類やキニン類の合成と特徴を説明できる。 3. サイトカインの定義と種類を説明できる。 4. エイコサノイドおよびPAFの合成を説明できる。 5. 細胞周期とアポトーシスについて説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：コアカリC-5-5), C-2-3)に関する範囲の復習 事前学修時間：60分 事後学修項目：講義配布プリントの復習 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア, 配布プリント 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項	栗原 紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/15 (火) 2時限 10:40～12:10	炎症の生化学	6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 C-2 生命の分子基盤 C-2-3) 細胞の構造と機能 ③細胞周期と細胞分裂を説明できる。	栗原 紀子
2026/09/17 (木) 3時限 13:10～14:40	歯の構造・全身の解剖学	【授業の一般目標】 歯・頭頸部以外の各器官系の構造を習得し、機能との関係を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯の正常構造を説明できる。 2. 全身の骨格を説明できる。 3. 主な全身の筋を説明できる。 4. 消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系を説明できる。 5. 循環器系を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：各器官系の総論を復習する。 事前学習時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントで骨、筋の復習をする。 事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系] 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ①人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環 (肺循環、体循環及び胎児循環) の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。	松野 昌展
2026/09/17 (木) 4時限 14:50～16:20	顎関節疾患の診断と治療	【授業の一般目標】 顎関節症の診断し、治療方針を立案できるようになるために、顎関節の構造・運動を把握し、顎関節症と顎関節疾患の違いを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. ヒトの顎関節の特徴を説明できる。 3. 顎関節の構造を説明できる。 4. 顎関節の運動の特徴について説明できる。 5. 顎関節に関連する咀嚼筋の起始停止および作用について説明できる。 6. 顎関節疾患と顎関節症の違いを説明できる。 7. 顎関節脱臼の診断および治療方法について説明できる。 8. 滑膜炎性骨軟骨腫症について説明できる。 9. 茎状突起過長症について説明できる。 10. 筋突起過長症について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：事前にGoogle Calendar上に当日の資料をアップしておきますので、講義の説明項目、説明する疾患の確認だけしておいてください。 ・準備学修時間：15分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】	*内田 貴之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/17 (木) 4時限 14:50～16:20	顎関節疾患の診断と治療	<p>Google Calenderにアップした資料を用いて講義を行います。紙媒体の配布は行いません。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患 (発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患) の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*内田 貴之
2026/09/24 (木) 3時限 13:10～14:40	炎症・痛みとその疾患：炎症の病理学	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、定義、徴候、分類及び病理組織学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 炎症の定義を述べることができる。 3. 炎症性細胞の種類と特徴について説明できる。 4. 炎症の5徴候について説明できる。 5. 炎症の分類と病理組織学的特徴について説明できる。 6. 炎症の代表的疾患の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 ・炎症の定義 ・炎症の分類 事前学修時間：40分 事後学修項目 ・授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング有無：無し マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦
2026/09/24 (木) 4時限 14:50～16:20	免疫学 (皮膚・粘膜のバリア, 自然免疫)	<p>【授業の一般目標】 微生物の感染に対する免疫的防御のしくみを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 3. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 4. 細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。 5. 自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 6. アレルギーの分類を説明できる。 7. 自己免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 8. ワクチンの分類と意義を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：今まで学んだ行動目標の範囲を予習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義スライド、プリント内容の復習 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p>	*齋藤 真規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/24 (木) 4時限 14:50～16:20	免疫学(皮膚・粘膜のバリア, 自然免疫)	<p>【場所(教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 g 免疫系(免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑦粘膜免疫を説明できる。 ⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/09/29 (火) 1時限 09:00～10:30	免疫学(抗原提示, 獲得免疫, アレルギー)	<p>【授業の一般目標】 自然免疫と獲得免疫について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 自然免疫と獲得免疫の流れを説明できる。 3. 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 4. アレルギーを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 自然免疫と獲得免疫について学修しておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 講義内容の復習 事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無: 無 学修媒体: マルチメディア</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 g 免疫系(免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/09/29 (火) 2時限 10:40～12:10	感染・免疫(薬理系)	<p>【授業の一般目標】 歯性感染症の薬物療法を適切に行うために、抗感染症薬、鎮痛薬、抗炎症薬について修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 抗感染症薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 2. 鎮痛薬・抗炎症薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 3. 歯科治療における薬物相互作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目: 「抗菌薬、抗ウイルス薬、鎮痛薬、抗炎症薬」について教科書で確認する。 ・事前学修時間: 30分 ・事後学修項目: 授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有(WebClass) 学修媒体: マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物療法 c 抗微生物薬</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論</p>	青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/29 (火) 2時限 10:40～12:10	感染・免疫(薬理系)	<p>総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物療法 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。 ②薬剤耐性(antimicrobial resistance <AMR>)に配慮した適切な抗菌薬使用を説明できる。</p>	青野 悠里
2026/10/01 (木) 3時限 13:10～14:40	感染・免疫(病理系)	<p>【授業の一般目標】 感染症と免疫の異常によっておこる疾患を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 感染症と免疫の異常によっておこる疾患を解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：感染症と免疫の異常によっておこる疾患の復習 ・準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 あり：ウェブクラスを用いたチェックテストの実施</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 カ 炎症 a 病因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。</p>	*末光 正昌
2026/10/01 (木) 4時限 14:50～16:20	歯質・歯の欠損と 歯科材料：インプラント系	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は臨床経験に基づき教授する。 2. デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 3. 口腔インプラントの基本構造が説明できる。 4. デンタルインプラントの治療法について説明できる。 5. インプラント治療のための検査・治療計画を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 今まで学んだコアカリの範囲 E-3-4)-(3)①, ②, ③, ④ 事前学修時間：30分 事後学修項目 授業の配布資料の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【講義】マルチメディアを用いた講義 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 6 インプラント義歯による治療 ア インプラント治療の基礎と成績 a オッセオインテグレーションの獲得</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 6 インプラント義歯による治療 ア インプラント治療の基礎と成績 b 成功基準 c リスクファクター a 上部構造の設計 b 埋入計画の立案</p>	*北川 剛至

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/01 (木) 4時限 14:50～16:20	歯質・歯の欠損と 歯科材料：インプラント系	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療</p> <p>E-3-4) - (3) 口腔インプラント</p> <p>①口腔インプラントの種類、特徴、目的及び意義を説明できる。</p> <p>③口腔インプラントに必要な診察と検査を説明できる。</p>	*北川 剛至
2026/10/06 (火) 1時限 09:00～10:30	歯質・歯の欠損と 歯科材料：有床義歯②	<p>【授業の一般目標】</p> <p>可撤性義歯を適切に適切に製作し患者に適切に装着するために必要な無歯顎の病態の検査、製作法及び装着後の管理を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 可撤性義歯製作のための印象採得を理解する。 3. 可撤性義歯製作のための咬合採得を理解する。 4. 平均値咬合器及び調整性咬合器の種類と特徴を理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学習項目：無歯顎補綴治療学第3／4版の講義内容部位を自学自習する。</p> <p>事前学習時間：60分</p> <p>事後学修項目：授業時配布資料を用いた内容確認と整理</p> <p>事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：あり</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 d 歯の欠如・欠損の治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 イ 臨床操作 b 印象採得 c 顎間関係の記録 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 b 印象採得 c 顎間関係の記録</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療</p> <p>E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯)</p> <p>⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。</p> <p>⑦歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。</p> <p>⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。</p>	*石井 智浩
2026/10/06 (火) 2時限 10:40～12:10	歯質・歯の欠損と 歯科材料：有床義歯③	<p>【授業の一般目標】</p> <p>可撤性義歯を適切に適切に製作し患者に適切に装着するために必要な無歯顎の病態の検査、製作法及び装着後の管理を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 人工歯選択を理解する。 3. 人工歯排列 (咬合様式を含む) を理解する。 4. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解する。 5. ろう義歯試適、装着及び調整を理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学習項目：無歯顎補綴治療学第3／4版、歯学生のパーシャルデンチャーの講義内容部位を自学自習する。</p> <p>事前学習時間：60分</p> <p>事後学修項目：授業時配布資料を用いた内容確認と整理</p> <p>事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：あり</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式</p>	*井上 正安

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/06 (火) 2時限 10:40～12:10	歯質・歯の欠損と 歯科材料：有床義 歯③	<p>d 歯の欠如・欠損の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 ウ 歯列、咬合 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録 d 試適（ろう義歯、フレームワーク） e 装着 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録 d ろう義歯の試適 e 装着 c 人工歯の選択・排列・歯肉形成</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑦歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 ⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。 ⑨人工歯の選択を説明できる。 ⑩可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 ⑪可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 ⑫可撤性義歯の製作過程を説明できる。 ⑬可撤性義歯の装着、調整を説明できる。</p>	*井上 正安
2026/10/08 (木) 3時限 13:10～14:40	歯質・歯の欠損と 歯科材料：有床義 歯④	<p>【授業の一般目標】 可撤性義歯を適切に製作し患者に適切に装着するために必要な無歯顎の病態の検査、製法及び装着後の管理を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床実務経験に基づき以下の項目を授業する 2. 可撤性義歯の製作過程を説明できる 3. 可撤性義歯の調整、術後管理の方法を説明できる 4. 可撤性義歯のリラインの手順を説明できる 5. 可撤性義歯の修理手順を説明できる 6. 可撤性義歯装着後における定期検診の項目を列挙できる 7. 可撤性義歯装着後における定期検診の指導項目を列挙できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：無歯顎補綴治療学第3/4版の講義内容部位を自学自習する。 ・事前学修時間： 60 分 ・事後学習項目：授業配布資料を用いた内容確認と整理 ・事後学習時間： 30 分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：あり</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 d 歯の欠如・欠損の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 7 特殊な装置による治療 ア 顎顔面補綴装置 8 指導と管理 ア 口腔衛生指導 イ 補綴装置に対する指導</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯） ⑬可撤性義歯の装着、調整を説明できる。 ⑭可撤性義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる。 ⑮可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。</p>	*小川 晃奈
2026/10/08 (木) 4時限 14:50～16:20	歯質・歯の欠損と 歯科材料：材料	<p>【授業の一般目標】 適合性の良い歯冠修復物・補綴装置を製作するために、それらに使用する材料の基本的性質および適切な取り扱い方法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 印象材の種類、組成および性質について説明できる。</p>	永田 俊介

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/08 (木) 4時限 14:50~16:20	歯質・歯の欠損と 歯科材料：材料	<p>2. 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。</p> <p>3. ワックスパターンの変形の原因およびその対策について説明できる。</p> <p>4. 鑄造用埋没材の種類、組成および性質について説明できる。</p> <p>5. 歯科精密鑄造の原理と鑄造欠陥の発生原因およびその対策について説明できる。</p> <p>6. 合着材・接着用材料の種類、組成および性質について説明できる。</p> <p>7. 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。</p> <p>8. 義歯床用アクリルレジンの変形の原因およびその対策について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科生体材料と歯科材料・器械に関する種類および成形法について教科書で確認し、該当する講義内容について予習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：配布した講義プリント内の試験問題（主に国試過去問）を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 c 印象用材料・機器 d 模型用材料、ワックス e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 f 歯冠修復・義歯用材料 g 成形技術・機器 h 装着用材料、接着処理</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	永田 俊介
2026/10/13 (火) 1時限 09:00~10:30	クラウンブリッジ による歯科補綴治 療（各論）	<p>【授業の一般目標】 歯質の欠損に対する歯冠修復における臨床的意義と方法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. クラウンブリッジ治療の用語を説明できる。 3. クラウンブリッジに使用する器具を述べることができる。 4. クラウンブリッジ治療手順の理解を深めるために基本的な知識を習得する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目：教科書の関連項目を学修する。 ・事前学習時間：30分 ・事後学習項目：授業で配布した資料を基に教科書を用いて知識の構築を図る。 ・事後学習時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：なし マルチメディア、配付プリント、教科書</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 a 歯の硬組織疾患の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 d 歯の欠如・欠損の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p>	*岩崎 正敏

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/13 (火) 1時限 09:00～10:30	クラウンブリッジによる歯科補綴治療 (各論)	E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ①クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。 ③支台築造の意義、種類及び特徴を説明できる。 ④支台歯形成の意義と方法を説明できる。 ⑤クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑥色調選択 (シェードテイキング) を説明できる。 ⑦プロビジョナルレストレーションの意義とその製作法を説明できる。 ⑩クラウンブリッジの装着方法を説明できる。 ⑫クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。 ⑬クラウンブリッジ装着後のメンテナンスの重要性を説明できる。	*岩崎 正敏
2026/10/13 (火) 2時限 10:40～12:10	クラウンブリッジによる歯科補綴治療 (臨床)	【授業の一般目標】 歯質の欠損に対する歯冠修復における臨床的意義と方法を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. クラウンブリッジの意義について説明できる。 3. クラウンブリッジの技工操作を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目: 教科書の関連項目を学修する。 ・事前学習時間: 30分 ・事後学習項目: 授業で配布した資料を基に教科書を用いて知識の構築を図る。 ・事後学習時間: 90分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無: なし 学修媒体: 講義プリント、PC 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 3 クラウンブリッジによる治療 ウ 技工操作 a ロストワックス法による製作 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 3 クラウンブリッジによる治療 ア クラウンブリッジの設計 a 前処置 b 支台歯形成 c 支台築造 d 印象採得 e プロビジョナルレストレーション f 顎間関係の記録 g 患者情報の記録と伝達 h 口腔内試適 i 仮着 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ②クラウンブリッジの種類、特徴及び製作法 (CAD/CAM を含む) を説明できる。 ⑧クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。 ⑨研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。	*内堀 聡史
2026/10/20 (火) 1時限 09:00～10:30	平常試験 3 および 解説講義	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 講義の内容に関する知識の修得状況を確認し、修正できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 講義ノート, 講義配布資料, 教科書, 問題集など 準備学修時間: 知識の修得に十分な学修時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/10/20 (火) 2時限 10:40～12:10	総合演習	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	総合演習	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート，講義配布資料，教科書，問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	*鈴木 到
2026/10/22（木） 3時限 13:10～14:40	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 歯周病の病態と徴候および歯周病の診査・診断について理解し，適切な歯周基本治療を選択できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 3. 歯周病の炎症の原因を理解する。 4. 歯周病の痛みと臨床症状を理解する。 5. 歯周病の病態を理解する。 6. 歯周病と全身疾患との関係について理解する。 7. 歯周組織検査の項目とその必要性について理解する。 8. 歯周病の分類について理解する。 9. 歯周治療計画の立案について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：臨床歯周病学 第3版 ・事後学修時間：120分 ・事後学修項目：授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 マルチメディアの使用 アクティブラーニング 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 b 歯周炎とそのリスクファクター</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 h 歯周疾患と健康の関わり b 歯周基本治療 d 咬合性外傷 f 歯肉退縮 g 歯周-歯内病変 c 咬合性外傷に対する治療 i 薬物療法 j メインテナンス、SPT (supportive periodontal therapy)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ④口腔細菌、プラーク（口腔バイオフィルム）及び歯石を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる（疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む）。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針（メインテナンス法を含む）を説明できる。 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる（疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む）。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針（メインテナンス法を含む）を説明できる。</p>	*高井 英樹
2026/10/22（木） 4時限 14:50～16:20	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 歯周外科治療の種類術式について理解し，病態に適した歯周外科治療を選択できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 3. 歯周基本治療の項目と内容について説明できる。 4. 歯周外科治療の術式および適応症を説明できる。 5. 臨床応用されている歯周組織再生療法について説明できる。 6. 歯周形成手術の術式および適応症を説明できる。 7. メインテナンスおよびSPTについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：臨床歯周病学 第3版</p>	*高井 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/22 (木) 4時限 14:50～16:20	歯と歯周組織の常態と疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修時間：120分 ・事後学修項目：授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 マルチメディアの使用 アクティブラーニング 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 d 歯周外科治療（切除療法、組織付着療法）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 b 歯周基本治療 e 歯周外科治療（歯周組織再生療法） f 歯周外科治療（歯周形成手術） j メインテナンス、SPT (supportive periodontal therapy)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる（疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む）。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針（メインテナンス法を含む）を説明できる。 ③歯周治療の術式と適応症を説明できる。 ④歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 ⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p>	*高井 英樹
2026/10/27 (火) 1時限 09:00～10:30	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 歯周外科治療の種類術式について理解し、病態に適した歯周外科治療を選択できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 3. 歯周基本治療の項目と内容について説明できる。 4. 歯周外科治療の術式および適応症を説明できる。 5. 臨床応用されている歯周組織再生療法について説明できる。 6. 歯周形成手術の術式および適応症を説明できる。 7. メインテナンスおよびSPTについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：臨床歯周病学 第3版 ・事前学修時間：120分 ・事後学修項目：授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 マルチメディアの使用 アクティブラーニング 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 d 歯周外科治療（切除療法、組織付着療法）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 b 歯周基本治療 e 歯周外科治療（歯周組織再生療法） f 歯周外科治療（歯周形成手術） j メインテナンス、SPT (supportive periodontal therapy)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる（疾患の細胞レベル、分</p>	*高井 英樹

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/27 (火) 1時限 09:00～10:30	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>子生物学的レベルでの説明を含む。</p> <p>②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針（メンテナンス法を含む）を説明できる。</p> <p>③歯周治療の術式と適応症を説明できる。</p> <p>④歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。</p> <p>⑤歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p>	*高井 英樹
2026/10/27 (火) 2時限 10:40～12:10	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるようになるために、3年次で学修した保存修復学の基本的事項を再確認し、知識の補強および補完を行う。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」 2. 硬組織疾患の検査について説明できる。 3. メタルインレー修復について説明できる。 4. セラミックインレー修復について説明できる。 5. 硬組織切削と歯髄保護について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 今まで学んだコアカリの範囲：D-2, E-3-3), 4) 事前学修項目：直接修復と間接修復の違い、硬組織疾患の検査 事前学修時間：60分 事後学修項目：硬組織疾患の検査、メタルインレー修復とセラミックインレー修復の違い 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学習媒体：講義プリント、講義スライド 指定教材 保存修復学第7版 準指定教材 CBT PASS ガイド(白パス)最新版</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 1 口腔検査・顎口腔機能検査 ア 口腔検査 a 歯の硬組織の検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 b 間接修復法 c 窩洞形成法 歯科医学総論 総論VI 検査 1 口腔検査・顎口腔機能検査 ア 口腔検査 a 歯の硬組織の検査 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 d 象牙質・歯髄保護法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ②minimal intervention <MI>に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ④修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 ⑤歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。 ⑦仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。</p>	*神谷 直孝
2026/10/29 (木) 3時限 13:10～14:40	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 適切な歯内療法を行えるようになるために、歯内療法に用いる機材・薬剤について修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯髄炎の病態・症状について説明できる。 3. 根尖性歯周炎の病態・症状について説明できる。 4. 歯髄保存療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目 歯の構造について説明できる。 準備学習時間 30分 復習学習項目 授業配布プリントの確認 復習学習時間 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：授業プリント、PC</p>	*岡部 達

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/29 (木) 3時限 13:10～14:40	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 b 歯内療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療 ①歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法 (直接覆髄法を含む)を説明できる (疾患の細胞レベルでの説明を含む)。</p>	*岡部 達
2026/10/29 (木) 4時限 14:50～16:20	歯と歯周組織の常態と疾患	<p>【授業の一般目標】 適切な歯内療法を行えるようになるために、歯内療法に用いる機材・薬剤について修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯内療法の処置の流れを説明できる。 3. 歯内療法に用いる薬剤について説明できる。 4. 外科的歯内療法の種類・適応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【準備学習項目】 予習項目：歯の構造について説明できる。 予習時間：30分 復習項目：授業配布プリントの確認。 復習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：授業プリント、P C</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 b 歯内療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療 ①歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法 (直接覆髄法を含む)を説明できる (疾患の細胞レベルでの説明を含む)。</p>	*岡部 達
2026/11/05 (木) 3時限 13:10～14:40	代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療：薬物動態	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物の適用方法と薬物動態について修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 2. 薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：「薬物動態」について教科書で確認する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 (WebClass) 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 c 薬物動態</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学</p>	川島 央暉

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/05 (木) 3時限 13:10～14:40	代謝・薬物動態・ 全身疾患と歯科治 療：薬物動態	C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ③薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。	川島 央暉
2026/11/05 (木) 4時限 14:50～16:20	代謝・薬物動態・ 全身疾患と歯科治 療：歯科治療に用 いる薬物	【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、医薬品の分類、薬物の作用機序、薬物の副作用と有害作用、薬物の相互作用について修得する。 【行動目標(SBOs)】 1. ライフステージにおける薬物適用上の注意を列挙し説明できる。 2. 止血薬・抗血栓薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 3. 抗悪性腫瘍薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 4. 気管支喘息治療薬を列挙し、作用機序と相互作用を説明できる。 5. 歯科治療における薬物相互作用を説明できる。 6. 医薬品の分類並びに薬物と医薬品との関係を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：「止血薬・抗血栓薬、抗悪性腫瘍薬、気管支喘息治療」について教科書で確認する。 ・事前学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。 ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有(WebClass) 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物療法 f 止血薬、抗血栓薬 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物療法 d 抗腫瘍薬 e 薬物適用の注意 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 ②毒薬、劇薬及び麻薬等の表示と保管を説明できる。 ③日本薬局方を説明できる。 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ④薬物の連用の影響(耐性、蓄積及び薬物依存)を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。	川島 央暉
2026/11/06 (金) 1時限 09:00～10:30	骨代謝と細胞外基 質	【授業の一般目標】 生体を構成する骨、細胞外基質の役割を理解するために、骨リモデリング機構、細胞接着配列と細胞外基質について学修する。 【行動目標(SBOs)】 1. 骨芽細胞による骨形成機序を説明できる 2. 破骨細胞の活性機序と抑制機序を説明できる。 3. 破骨細胞の骨吸収機序を説明できる。 4. 細胞接着配列を説明できる。 5. 細胞外基質の種類と特徴を説明できる。 6. コラーゲンの合成および分解過程を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：講義内容についての予習しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布した講義内容を復習する。 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 マルチメディア、プリント配布 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/06 (金) 1時限 09:00～10:30	骨代謝と細胞外基質	<p>ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ①細胞接着の機構を説明できる。 ③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能、合成と分解を説明できる。 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ④骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）、骨成長及びリモデリングの機序と調節機構を説明できる。 ⑤硬組織の成分と石灰化の機序を説明できる。</p>	平塚 浩一
2026/11/06 (金) 2時限 10:40～12:10	救急処置について	<p>【授業の一般目標】 歯科治療や手術時の周術期管理および救急処置について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 周術期管理について説明することができる。 3. 心肺蘇生法およびその方法について説明することができる。 4. AEDについて説明することができる。 5. 救急処置に用いる薬剤について説明することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：CBTPASSガイド第8版E-1診療の基本P371-374。4年次後期歯科麻酔学講義・実習の見直し。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布したプリントの見直し。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 10 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置（BLS）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VII 治療 3 救急医療 ア 一次救命処置 b AEDの使用</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。</p>	*辻 理子 *下坂 典立
2026/11/10 (火) 1時限 09:00～10:30	口腔領域の検査：画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の嚢胞および腫瘍の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 下記の学修目標及び講義内容については臨床経験にも続いて設定されている。 2. 顎・口腔領域の嚢胞の特徴的な画像所見を説明できる。 3. 顎・口腔領域の腫瘍の特徴的な画像所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。 3) CT, MRI, 超音波検査および核医学検査の適応を説明できる。 ・事前学修時間：2時間 事後学修項目 1) 嚢胞の画像所見 2) 腫瘍の画像所見 ・事後学修時間：2時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：スライド 試験等のフィードバックは授業プリントを用いて口頭で行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査</p>	*伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/10 (火) 1時限 09:00～10:30	口腔領域の検査： 画像検査・放射線	2 画像検査 コ 画像の鑑別診断 a 正常画像と主要疾患画像 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ②放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。 ③放射線防護の基準と方法を説明できる。 ④エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を説明できる。 ⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。 ⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imagin g <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	*伊東 浩太郎
2026/11/10 (火) 2時限 10:40～12:10	口腔領域の検査： 画像検査・放射線	【授業の一般目標】 顎口腔領域の外傷および炎症の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 下記の学修目標及び講義内容については臨床経験にも続いて設定されている。 2. 顎・口腔領域の外傷の特徴的な画像所見を説明できる。 3. 顎・口腔領域の炎症の特徴的な画像所見を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。 3) CT検査の適応を説明できる。 ・事前学修時間：2時間 事後学修項目 1) 外傷の画像所見 2) 炎症の画像所見 ・事後学修時間：2時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：スライド 試験等のフィードバックは授業プリントを用いて口頭で行う。 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 オ CT a 原理、特徴、適応 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 カ MRI a 原理、特徴、適応 c パノラマエックス線撮影 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ②放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。 ③放射線防護の基準と方法を説明できる。 ④エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を説明できる。 ⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。 ⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imagin g <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	*伊東 浩太郎
2026/11/12 (木) 3時限 13:10～14:40	口腔領域の検査： 臨床検査	【授業の一般目標】 口唇・口腔・顎顔面領域の検査を行うために必要な基本的な知識、技能及び態度を身につける。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 臨床検査の意義について説明できる。 3. 臨床検査の種類と方法について説明できる。 4. 臨床検査の基準値を知り、重要な異常について説明できる。	*續橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/12 (木) 3時限 13:10~14:40	口腔領域の検査： 臨床検査	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目 臨床検査の意義及び方法 ・準備学修時間：60分 ・事後学修項目 授業の配布資料の復習 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングの有無：なし マルチメディアの使用</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>9 検査・臨床判断の基本</p> <p>ア 意義と目標</p> <p>a 診断</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>9 検査・臨床判断の基本</p> <p>ア 意義と目標</p> <p>b 治療効果の判定、治療経過の評価</p> <p>c スクリーニング、医療情報の収集</p> <p>エ 検体検査の種類</p> <p>a 一般臨床検査</p> <p>b 血液学検査</p> <p>c 生化学検査</p> <p>d 免疫血清学検査</p> <p>e 微生物学検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-3) 臨床検査</p> <p>①臨床検査の目的と適応を説明できる。</p> <p>②診断に必要な臨床検査項目を列挙できる。</p> <p>④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。</p> <p>⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。</p> <p>B 社会と歯学</p> <p>B-1 健康の概念</p> <p>①健康、障害と疾病の概念を説明できる。</p> <p>②口腔と全身の健康との関連を説明できる。</p>	*續橋 治
2026/11/12 (木) 4時限 14:50~16:20	予防歯科材料・矯正用材料・口腔インプラント材料	<p>【授業の一般目標】</p> <p>予防歯科材料、矯正用材料および口腔インプラント材料を適切に使用するために、それらの基本的性質について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予防歯科材料の種類、組成および性質について説明できる。 2. 矯正用材料の種類、組成および性質について説明できる。 3. 口腔インプラント材料の種類、組成および性質について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：歯科生体材料と歯科材料・器械に関する種類および成形法について教科書で確認し、該当する講義内容について予習する。</p> <p>事前学修時間：30分</p> <p>事後学修項目：配布した講義プリント内の試験問題（主に国試過去問）を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。</p> <p>事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無</p> <p>学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>1 1 治療の基礎・基本手技</p> <p>セ 歯科材料・機器</p> <p>a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>1 1 治療の基礎・基本手技</p> <p>セ 歯科材料・機器</p> <p>e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料</p> <p>i 歯科矯正用材料</p> <p>j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）</p> <p>D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法</p> <p>①成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/12 (木) 4時限 14:50～16:20	予防歯科材料・矯正用材料・口腔インプラント材料	④歯科矯正用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ⑤口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。	谷本 安浩
2026/11/17 (火) 1時限 09:00～10:30	成長発育：顎顔面頭蓋の成長発育と矯正装置	<p>【授業の一般目標】 口腔・顎・顔面の成長発育を考慮した矯正治療を実践するために、成長発育を利用した矯正治療について修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎整形力を説明できる。 3. 早期治療を説明できる。 4. 成長期に用いる矯正装置を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：①矯正装置の特徴 ②矯正力の種類 ③予防矯正・抑制矯正 *歯科矯正学第6版p183-194、p215-262および、4年生前期歯科矯正学の講義で配布されたプリントを参照すること。 ・事前学修時間：60分 ・事後学修項目：矯正装置の特徴について ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCによるスライド 参考図書：医歯薬出版「歯科矯正学」第6版</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 e 不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 10 歯科矯正用材料 イ バンド、ブラケット、チューブ ウ エラスティック材、コイルスプリング エ 接着用材料 オ 床用レジン、熱可塑性樹脂 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態 7 矯正力 ア 器械的矯正力 イ 機能的矯正力 ウ 顎整形力 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。</p>	*石井 かおり
2026/11/17 (火) 2時限 10:40～12:10	成長発育：成長発育の特徴および評価、顎顔面頭蓋の成長発育の特徴について	<p>【授業の一般目標】 顎顔面の不正な成長発育や様々な環境要因から引き起こされる不正咬合を改善し、個人の福祉に寄与するため、顎顔面頭蓋の成長発育の基本的な知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 生理的年齢を説明できる。 3. Harris と Scammon の成長発育パターンについて述べるができる。 4. 成長発育の評価法およびその意義を説明できる。 5. 鼻上顎複合体の成長発育を述べるができる。 6. 下顎骨の成長発育の特徴を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：①HarrisとScammonの臓器発育曲線について ②生理的年齢について ③成長発育の評価法について ④鼻上顎複合体の成長発育について ⑤下顎骨の成長発育について *歯科矯正学第6版p14-42および、4年生前期歯科矯正学の講義で配布されたプリントを参照すること。 ・事前学修時間：40分 ・事後学修項目：顎顔面頭蓋部の成長発育について ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	*石井 かおり

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/17 (火) 2時限 10:40～12:10	成長発育：成長発育の特徴および評価、顎顔面頭蓋の成長発育の特徴について	202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 b 頭蓋骨（顔面骨を含む）の成長の特徴（成長の時期、骨形成様式） 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ②口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる。	*石井 かおり
2026/11/19 (木) 3時限 13:10～14:40	成長発育：障害者、高齢者の特徴	【授業の一般目標】 障害者ならびに高齢者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 3. 障害者の行動調整と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 4. 高齢者の生理的、心理的および行動的特徴を説明できる。 5. 要介護高齢者（在宅も含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 6. 摂食嚥下障害の診察、検査ならびに診断について説明できる。 7. 摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：これまでに学んだコアカリの範囲を復習する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業時配布資料を用いた内容確認と整理 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：PCスライド、配布プリント 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 1 治療の基礎 オ 障害者の治療 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 6 リハビリテーション イ リハビリテーションの技術 a 摂食嚥下障害のリハビリテーション 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 1 病態 イ 摂食嚥下障害 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 2 治療の基礎 オ 障害者の治療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 a 一般的対応 b 行動調整 1 疾患・病態 ア 運動障害 e 神経・筋疾患 a 認知症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ①高齢者の生理的、心理的及び行動的特徴を説明できる。 ⑥要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を説明できる。 ⑧摂食嚥下障害の診察、検査及び診断を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 ②障害者の行動調整（行動管理）と歯科治療に必要な注意点を説明できる。	*地主 知世
2026/11/19 (木) 4時限 14:50～16:20	成長発育：小児	【授業の一般目標】 小児の齲蝕治療ができるようになるために、乳歯および幼若永久歯の齲蝕、歯冠修復および歯内療法について理解する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 乳歯および幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。 3. 小児の歯冠修復の適応症を説明できる。 4. 小児の歯冠修復の術式を説明できる。 5. 小児の歯内療法の適応症を説明できる。 6. 小児の歯内療法の術式を説明できる。	*岡本 京

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/19 (木) 4時限 14:50～16:20	成長発育：小児	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：『小児の口腔科学』小児の齲蝕と予防、小児の齲蝕治療 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業配布資料の内容確認と整理 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCスライド 参考図書：学研書院『小児の口腔科学』</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 a 歯・歯列・咬合の発育（発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 イ 小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 a 治療環境 b 患者の体位 c コミュニケーション 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患・根尖性歯周疾患 ウ 小児の歯髄疾患・根尖性歯周疾患 a 歯髄疾患 b 歯髄疾患への対応 c 根尖性歯周疾患 d 根尖性歯周疾患への対応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ①乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。 ②乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる。 ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる。 ④乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる。 ⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の処置法の種類、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる。</p>	*岡本 京
2026/11/24 (火) 1時限 09:00～10:30	成長発育：小児	<p>【授業の一般目標】 外傷を主訴として来院した小児患者に対処することができるようになるために、小児の歯の外傷および対応法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 小児の歯の外傷の特徴を説明できる。 3. 小児の歯の外傷の原因を説明できる。 4. 外傷歯への影響を説明できる。 5. 乳歯外傷による後継永久歯への影響を説明できる。 6. 乳歯および幼若永久歯の歯冠破折の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 7. 乳歯および幼若永久歯の歯根破折の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 8. 乳歯および幼若永久歯の脱臼の診査と診断および処置法と予後を説明できる。 9. 小児の歯の外傷の予防を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：『小児の口腔科学』小児の歯の外傷と処置 事前学修時間：60分 事後学修項目：授業配布資料の内容確認と整理 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：授業配布プリント、PCスライド 参考図書：学研書院『小児の口腔科学』</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態 4 小児の歯・口腔・顎の外傷 オ 歯の外傷の予防</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態</p>	*岡本 京

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/24 (火) 1時限 09:00～10:30	成長発育：小児	4 小児の歯・口腔・顎の外傷 イ 口腔粘膜外傷の病態・診断・治療 ウ 小児顎骨骨折の病態・診断・治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる。	*岡本 京
2026/11/24 (火) 2時限 10:40～12:10	成長発育：組織	【授業の一般目標】 歯の発生を中心にコアカリの内容を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 2. 歯の発生段階を列挙できる 3. エナメル器の構造を説明できる 4. 歯の形成細胞を列挙できる 5. 歯周組織の発生を説明できる 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯の発生について 事前学修時間：60分 事後学修項目：歯の発生について配布プリントを中心に復習する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体等：PPTスライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 8 口腔・顎顔面の発生・成長・発育 イ 歯・歯周組織の形成と歯の萌出 a 歯胚の形成 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ①歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。 ⑥歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。	河野 哲朗
2026/11/26 (木) 3時限 13:10～14:40	平常試験 4 および 解説講義	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【コアカリキュラム】	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/11/26 (木) 4時限 14:50～16:20	総合演習	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/12/01 (火) 1時限 09:00～10:30	コミュニケーション能力(コミュニケーション・患者と医師の関係)	【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科患者の心理特性、効果的な会話、患者から効率的に情報収集、効果的な会話スキルに関する知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 医療面接の目的および医療面接で行う具体的な内容を説明できる。 3. 医療面接の4要素 (尋ねる、聴く、答える、観察する) について説明できる。 4. コミュニケーションスキルを列挙し説明できる。 5. 非言語的コミュニケーションを説明できる。 6. 基本的な医療者の態度について説明できる。	*岡本 康裕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/01 (火) 1時限 09:00～10:30	コミュニケーション能力(コミュニケーション・患者と医師の関係)	<p>7. 聴く態度の重要性について説明できる。 8. 患者とのよいラポールを確立するための方法を説明できる。 9. 信頼関係を確立するための医療面接スキルを説明できる。 10. OSCE (試験) の実施の仕方を概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： OSCE (試験) 医療面接の評価について復習する。 医療におけるコミュニケーションの重要性について復習する。</p> <p>・準備学修時間：15分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 学修媒体：授業の配布資料</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 b 自己紹介、患者の確認 c マナー (身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応) d 聴取事項 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望) e 患者への説明・声かけ・例示</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 A-3 診療技能と患者ケア ①適切な医療面接により、患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を実施できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 ③医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 A-4-2) 患者と歯科医師の関係 ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。 ④医療行為は患者と歯科医師との高度な信頼関係を基礎とする契約に基づいていることを説明できる。 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ①医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。</p>	*岡本 康裕
2026/12/01 (火) 2時限 10:40～12:10	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として必要な医の倫理、治験の流れを把握し、歯科医師法、医療法について理解し、修得できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯科医師として必要な医の倫理、治験の流れを説明できる。 3. 歯科医師法、医療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：医の倫理 準備学修時間：30分 事後学修項目：医の倫理 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 ・配布資料</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理 a 患者の人権と医療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理</p>	*有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/01 (火) 2時限 10:40～12:10	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	b 医療者の倫理（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など） イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療（インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンなど） b 患者の権利 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法 b 医療法 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 ②医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。 ③臨床（生と死に関わる問題を含む）に関する倫理的問題を説明できる。 ④医学研究に関する倫理的問題を説明できる。 ⑤情報倫理に関わる問題を説明できる。 ⑥研究を、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行うよう配慮できる。 A-1-2) 患者中心の視点 ①患者の権利を説明できる。 ②患者の自己決定権を説明できる。 ③患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。 ④インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。	*有川 量崇
2026/12/03 (木) 3時限 13:10～14:40	基本的事項：口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 健康、障害、疾病の概念を理解し、説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 健康とは何か、を説明できる。 2. 第一次、第二次および第三次予防を説明できる。 3. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：健康の定義、健康づくりにおける地域保健活動について 事前学修時間：30分 事後学修項目：健康・予防の概念と健康づくりにおける保健活動の概念を整理する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 PC, 資料配布 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 d 国民健康づくり対策 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 a プライマリヘルスケア b ヘルスプロモーション c 行動変容 e メタボリックシンドローム対策 f 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ①健康、障害と疾病の概念を説明できる。 ②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 ③栄養と食育を説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-1) 予防の概念 ①疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。 ②プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。 ③プライマリ・ケアとヘルスプロモーションを説明できる。 ④感染性疾患と非感染性疾患の予防の違いを説明できる。	田口 千恵子
2026/12/03 (木) 4時限 14:50～16:20	基本的事項：口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 集団レベルの予防と健康管理を説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1. 地域歯科保健について説明できる。 2. 母子保健について説明できる。 3. 学校歯科保健について説明できる。 4. 産業歯科保健について説明できる。 5. 成人歯科保健について説明できる。 6. 高齢者歯科保健について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について	田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/03 (木) 4時限 14:50～16:20	基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>事前学修時間：30分 事後学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について整理する 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 P C, 資料配布</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 a プライマリヘルスケア</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健にかかる法規と制度 a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律 b 母子保健 c 学校保健 d 産業保健 e 成人・高齢者保健</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ④高齢者の置かれた社会環境を説明できる。 ⑤障害者の置かれた社会環境を説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑥公衆歯科衛生を概説できる。 ⑧行動変容と行動療法を概説できる。</p>	田口 千恵子
2026/12/08 (火) 1時限 09:00～10:30	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として必要な、歯科医師法、医療法について理解し、修得できる。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 歯科医師法、医療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：歯科医師法、医療法 準備学修時間：30分 事後学修項目：歯科医師法、医療法 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学習媒体：配布資料</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障 エ 保健・医療・福祉・介護の法規と仕組み a 医事衛生法規</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法 b 医療法</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-1) 歯科医師法・歯科医療関連法規 ①歯科医師法を説明できる。 ②医療法を概説できる。</p>	小椋 正之
2026/12/08 (火) 2時限 10:40～12:10	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 疫学・保健医療統計について理解する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 主な保健医療統計を説明できる 2. 主な健康指標（平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等）を説明できる。 3. 調査方法と統計的分析法を説明できる。</p>	*鈴木 到

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/08 (火) 2時限 10:40～12:10	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：保健医療統計について概説できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：保健医療統計について説明できる。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 ウ 保健医療統計調査 a 人口統計、保健医療統計</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 イ 疫学指標 a 頻度・関連を表す疫学指標 b 歯科における疫学指標</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-2) 保健統計 ①確率変数とその分布、統計的推測 (推定と検定) の原理と方法を説明できる。 ②主な保健医療統計 (歯科疾患実態調査、国民健康・栄養調査、国勢調査、人口動態調査、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、学校保健統計調査等) を説明できる。 ③主な健康指標 (平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等) を説明できる。 ④調査方法と統計的分析法を説明できる。</p>	*鈴木 到
2026/12/10 (木) 3時限 13:10～14:40	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 疫学・保健医療統計を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔疾患の疫学について説明できる。 2. 保健医療情報について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について概説できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について説明できる。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 ア 疫学とその応用 a 疫学の概念</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 ア 疫学とその応用 b スクリーニング検査 c 統計解析 d 因果関係の成立 e 観察研究、介入研究 f 臨床疫学 a 頻度・関連を表す疫学指標 b 歯科における疫学指標 a 人口統計、保健医療統計 b 歯科領域における保健医療統計・疫学調査</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 歯科疾患の疫学 ①疫学と根拠に基づいた医療 (EBM) の概念を説明できる。 ②スクリーニング検査を説明できる。 ③歯科疾患の疫学的指標を説明できる。 ④診療ガイドラインを説明できる。</p>	*鈴木 到

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/10 (木) 3時限 13:10～14:40	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	B-4-3) 保健医療情報 ①保健医療情報（診療情報（診療録等）を含む）の取扱いと情報のセキュリティを説明できる。 ②診療情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。	*鈴木 到
2026/12/10 (木) 4時限 14:50～16:20	医の倫理・医療事故・コミュニケーション保健・関連法規：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 疫学・保健医療統計を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔疾患の疫学について説明できる。 2. 保健医療情報について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について概説できる。 事前学修時間：30分 事後学修項目：口腔疾患の疫学と保健医療情報について説明できる。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 ア 疫学とその応用 a 疫学の概念</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 6 疫学と調査 ア 疫学とその応用 b スクリーニング検査 c 統計解析 d 因果関係の成立 e 観察研究、介入研究 f 臨床疫学 a 頻度・関連を表す疫学指標 b 歯科における疫学指標 a 人口統計、保健医療統計 b 歯科領域における保健医療統計・疫学調査</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 歯科疾患の疫学 ①疫学と根拠に基づいた医療（EBM）の概念を説明できる。 ②スクリーニング検査を説明できる。 ③歯科疾患の疫学的指標を説明できる。 ④診療ガイドラインを説明できる。 B-4-3) 保健医療情報 ①保健医療情報（診療情報（診療録等）を含む）の取扱いと情報のセキュリティを説明できる。 ②診療情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。</p>	*鈴木 到
2026/12/15 (火) 1時限 09:00～10:30	基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 集団レベルの予防と健康管理を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 地域歯科保健について説明できる。 2. 学校歯科保健について説明できる。 3. 産業歯科保健について説明できる。 4. 成人歯科保健について説明できる。 5. 高齢者歯科保健について説明できる。 6. 母子歯科保健について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について 事前学修時間：30分 事後学修項目：集団（地域、学校、成人、高齢者、産業）レベルの歯科予防について整理する 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニング】 無 【講義】 PC, 資料配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健にかかる法規と制度</p>	田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/15 (火) 1時限 09:00～10:30	基本的事項：口腔衛生・関連法規	<p>b 母子保健</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 イ 地域保健にかかる法規と制度 a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律 c 学校保健 d 産業保健 e 成人・高齢者保健 f 障害児・障害者保健 g 精神保健 h 健康危機管理</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ④高齢者の置かれた社会環境を説明できる。 ⑤障害者の置かれた社会環境を説明できる。 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑥公衆歯科衛生を概説できる。 ⑧行動変容と行動療法を概説できる。</p>	田口 千恵子
2026/12/15 (火) 2時限 10:40～12:10	顎口腔領域の疾患 (口腔外科系)	<p>【授業の一般目標】 唾液腺疾患を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 唾液腺疾患を解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：唾液腺疾患の復習 ・準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 あり：ウェブクラスを用いたチェックテストの実施</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 g 良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*末光 正昌
2026/12/17 (木) 3時限 13:10～14:40	歯科医療に必要な麻酔と全身管理	<p>【授業の一般目標】 歯科医療における全身管理、精神鎮静法、全身麻酔法について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. バイタルサインについて説明することができる。 3. 精神鎮静法について説明することができる。 4. 全身麻酔法について説明することができる。 5. 局所麻酔法について説明することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目：CBTPASSガイド第8版E-1診療の基本P353-365。歯科麻酔学で学修した局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法の復習。 ・事前学習時間：30～60分 ・事後学習項目：授業配布プリントの内容確認と整理 ・事後学習時間：60分以上。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学習媒体等：授業時配布プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 b 全身麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p>	*下坂 典立 *辻 理子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/17 (木) 3時限 13:10～14:40	歯科医療に必要な麻酔と全身管理	<p>必修の基本的事項</p> <p>1 1 治療の基礎・基本手技</p> <p>カ 麻酔法</p> <p>c 精神鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理</p> <p>E-1-4) - (1) 全身管理</p> <p>①バイタルサインの意義とそのモニタリングの方法を説明できる。</p> <p>②血圧、脈拍数、呼吸数の測定方法と異常所見を説明できる。</p> <p>③体温の測定方法を説明できる。</p> <p>⑤患者の服用薬物の歯科治療への影響と歯科治療時の対応を説明できる。</p> <p>E-1-4) - (2) 精神鎮静法</p> <p>①精神鎮静法の特徴と目的及び種類を説明できる。</p> <p>E-1-4) - (3) 局所麻酔法</p> <p>①局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。</p> <p>E-1-4) - (4) 全身麻酔法</p> <p>②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。</p>	<p>*下坂 典立</p> <p>*辻 理子</p>
2026/12/17 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔顎顔面領域の疾患	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔顎顔面領域の疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 下記の学修目標及び講義内容は臨床経験に基づいて設定されている。</p> <p>2. 顎骨内嚢胞を理解する。</p> <p>3. 顎骨内に発生する歯源性嚢胞・非歯源性嚢胞を理解する。</p> <p>4. 軟組織に発生する嚢胞を理解する。</p> <p>5. 嚢胞を診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学習項目：口腔顎顔面外科学の講義プリントおよび平常試験の問題を熟読する。</p> <p>事前学習時間：40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：実施せず</p> <p>学修媒体：PC, 資料配布</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>7 主要症候</p> <p>イ 口腔・顎顔面領域の症候</p> <p>a 一般的症候 [疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常 (硬さ、熱感を含む)、機能障害 (開口障害を含む)]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>7 主要症候</p> <p>イ 口腔・顎顔面領域の症候</p> <p>f 口腔粘膜の症候</p> <p>g 舌の症候</p> <p>h 顎骨の症候 (形態の異常、偏位)</p> <p>i 顎関節の症候 (関節痛、関節雑音、運動障害)</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常</p> <p>①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (2) 外傷</p> <p>②外傷の治療方針 (治療の優先順位) を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (3) 炎症</p> <p>⑥主な炎症 (舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等) の症状と治療法を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (5) 嚢胞</p> <p>②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (7) 顎関節疾患</p> <p>①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	<p>*飯塚 普子</p>
2026/12/22 (火) 1時限 09:00～10:30	顎骨腫瘍	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯源性腫瘍、代謝障害及び細胞傷害による形態学的変化を理解するために、その病理学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づき以下の内容を教授する。</p> <p>2. 歯源性腫瘍の分類を説明できる。</p> <p>3. 歯源性腫瘍の病理学的特徴を説明できる。</p> <p>4. 加齢の原則について説明できる。</p> <p>5. 加齢による口腔諸組織の病理学的変化の基本的事項について説明できる。</p> <p>6. 加齢に関連する退行性病変 (萎縮・変性・壊死・アポトーシス) について説明できる。</p> <p>7. 加齢に関連する進行性病変 (肥大・過形成・化生) について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	<p>*宇都宮 忠彦</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/22 (火) 1時限 09:00～10:30	顎骨腫瘍	<p>事前学修項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 菌原性腫瘍の分類 2) 退行性病変(萎縮、変性、壊死、アポトーシス)の特徴 <p>・事前学修時間：60分</p> <p>事後学修項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学修性腫瘍の病理組織学的特徴 2) 退行性病変(萎縮、変性、壊死、アポトーシス)の病理組織学的特徴 <p>・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング有無：無し マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 細胞・組織の損傷と修復</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 エ 人体の加齢変化 a 細胞・組織・器官の形態的変化（口腔および顎骨を含む） 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 k 嚢胞、腫瘍、腫瘍類似疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-3) 組織、器官及び個体の老化 ②老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 C-5 病因と病態 C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ①細胞傷害と組織傷害を説明できる。 ②変性と関連疾患の病態を説明できる。 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 ④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦
2026/12/22 (火) 2時限 10:40～12:10	総合演習	<p>【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/12/24 (木) 3時限 13:10～14:40	平常試験 5 および 解説講義	<p>【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2026/12/24 (木) 4時限 14:50～16:20	総合演習	<p>【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート、講義配布資料、教科書、問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 *栗原 紀子 *鈴木 到
2027/01/12 (火) 1時限 09:00～10:30	ガイダンス・共用 試験の説明 2	<p>【授業の一般目標】 共用試験（CBT・OSCE）実施方法と評価法について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	*清水 武彦 *谷本 安浩 *伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2027/01/12 (火) 1時限 09:00～10:30	ガイダンス・共用 試験の説明2	【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 谷本 安浩 *伊東 浩太郎
2027/01/12 (火) 2時限 10:40～12:10	総合演習	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート，講義配布資料，教科書，問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング： 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 栗原 紀子 *鈴木 到
2027/01/14 (木) 3時限 13:10～14:40	総合演習	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート，講義配布資料，教科書，問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室 【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし 【コアカリキュラム】	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 栗原 紀子 *鈴木 到
2027/01/14 (木) 4時限 14:50～16:20	総合演習	【授業の一般目標】 講義内容に対する知識の理解度について確認する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：講義ノート，講義配布資料，教科書，問題集など 準備学修時間：知識の修得に十分な学修時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室	*清水 武彦 *宇都宮 忠彦 栗原 紀子 *鈴木 到